

## 第 31 期第 6 回仙台市図書館協議会会議録

- ◎ 会議の日時・場所 令和 6 年 5 月 17 日（金）10 時 00 分～12 時 00 分  
仙台市役所上杉分庁舎 2 階 第 2 会議室
- ◎ 出席委員の氏名 狩野富士子委員、児玉忠委員、小林直之委員、  
佐藤幸雄委員、杉山秀子委員、高橋由臣委員、  
竹内透史委員、矢嶋哲也委員、渡邊千恵子委員
- ◎ 事務局職員氏名 市民図書館長 樋口千恵、市民図書館副館長 伊勢貴  
広瀬図書館長 菊池雅人、宮城野図書館長 岩淵明広  
榴岡図書館長 柴田雅子、若林図書館長 村上佳子  
太白図書館長 湯村倫子、泉図書館長 那須野昌之  
市民図書館企画運営係長 宍戸信宏  
市民図書館奉仕整理係長 吾妻由美

### ◎ 会議の概要

#### 1 開会

#### 2 挨拶

館長挨拶・事務局紹介

会長挨拶

#### 3 会議録署名委員指名

会長より矢嶋哲也委員を指名

#### 4 報告事項

##### （1）令和 6 年度仙台市図書館運営方針・事業計画について

（市民図書館副館長 報告）

資料 1 に基づき報告

[委員からの質問・意見等]

杉山秀子委員 方向性 2 の 5 番目の取組内容に「地域の子育て関連施設等と連携したおはなし会など、家庭での読書習慣のきっかけづくりの推進」とあるが、私は、読書はやはり家庭が基本となって習慣付けするものと思う。家庭に本がある環境をつくり、大人が本を読む姿を子どもに見せることが大事と思うが、私たち大人はスマートフォンやタブレットを見ていることが多く、そのような大人が子どもに本を読みなさいと言うことはなかなか難しいと思う。

また、「おはなし会」について、私自身もおはなし会はたくさんしているが、そこでは親子で本を見るが、家庭で大人が自分の子どもや孫に本を読んであげるかという、

なかなかそれができない。家庭で本を読まなくても図書館や子育て支援施設に行けばたくさん実施されているので、家庭で本を読む機会をつくるのがむしろ難しい状況にあると感じる。そのような中で、家庭での読書習慣のきっかけづくりの推進について、図書館としてどのように取り組んでいくのか、具体的にお聞かせいただきたい。

事務局 私どもも、家庭において、保護者の方から実際に本を読んであげるという習慣をつくっていただきたいと考えている。もともと習慣があるご家庭はたくさんあると思うが、習慣がないご家庭というのも、同様にたくさんあると思う。

本市の図書館では、どの館でもおはなし会を定例的に実施しているが、中でも「赤ちゃん、乳児向けおはなし会」に非常に力を入れている。様々な場所で赤ちゃんや乳児向けのおはなし会を実施していくには図書館の職員だけではなかなか足りないのが現状だ。幼児向けのおはなし会をしているボランティアさんは結構おられるが、乳児向けのおはなし会というのはまた別のスキルも伴うため、そういったスキルを身につけていただき、ご協力いただけるボランティアさんを増やしていけるような講座も実施している。

また、実際に本を目当てに図書館に来館される方というのは本を読む習慣のある方だと思うが、先ほど事務局からご説明した「にこにこ赤ちゃん・えほんのひろば」という事業では、栄養士さんをお招きして、図書館の絵本のコーナーに行かなくても、子育てする上で困っていることを相談できるコーナーを同じ場所に設けた。乳幼児相談を目的に来たら隣で絵本を読んでいる親子がいるという場をつくることで、ふだん本に触れ合う機会を持たない方にも、絵本を読むって何か楽しそうだなと感じていただいて、絵本に関心を持っていただく取り組みを実施しているところである。

それから、現在、移動図書館車に非常に可愛い絵本のキャラクターをラッピングして、様々なイベントに出張して本の貸出しをしている。例えば、公園やイベントのスペースに出向き、椅子を出して、そこでその移動図書館から本を借りた大人が本を読んだり、親子で本を読んだりしている姿を、通りかかった人やイベントに参加している人も目にするような空間をつくり、ふだんは図書館に足を運ばない方にも、絵本を含め本の魅力、読み聞かせの楽しさが感じられる機会を創出しているところである。

図書館で待っているだけでは駄目だと感じているので、おはなし会に足を運んでくださる方はもちろん大切にしつつ、足を運んでくださらない、足を運ぶ習慣をまだお持ちでない方にも、絵本や本を読む楽しさを意識的にアピールしていくような機会をこれからも積極的に持ち、それが家庭での読書活動につながっていけばと考えている。

杉山秀子委員 移動図書館のそばに椅子を置いて外で親子が絵本を広げるといった空間づくりは本当に良い取り組みだと思う。家の中以外でも本を手取る機会があると、少し本を手にとって見てみようかなという気持ちになるし、そこで「本って楽しいな」と感じてもらえると、きっと子どもたちは本に向かうと思う。読み聞かせは子どもが字が読めるようになったら終わりではなくて、小学校、中学校でも必要だと感じる。例えば、学校の図書室に司書がいて様々な本を紹介するというのも本に親しむきっかけづくりになると思う。子どもにとっては、まだまだ紙媒体の図書は必要だと思うので、そこにいる大人たちが子どもとどれくらい個々に関わりを持てるのかがとても大事ではないかと感じる。乳幼児だ

けでなく、学校の図書室でも、もっと一対一の対応ができたらうれしく思う。

議 長 良い悪いは別にして、スマートフォンからの情報の影響というのは非常に大きいので、これを手段として使えないかと思う。例えば、子どもに本を読み聞かせているのがカッコいい、すてきだと感じるファミリーのキャラクターを作って、その家族の在り方いいよねというイメージをつくっていくというのでもいいのかなと思う。それで、キャラクターたちが「今日お父さんが選んだ絵本はこれ」とインスタにあげるとか。

移動図書館については、例えば、テレビの情報番組や新聞など様々な媒体を使って、重点的に取り上げてもらうような取組みもいいと思う。

狩野富士子委員 中学校に勤務しているが、今年の5月9日に、仙台市内の学校図書館に関わる先生方の総会があった。その際、市民図書館と泉図書館の行政教員を講師としてお招きして、図書館と学校をつなぐ学校連携事業の研修を受けた。毎年5月の総会にこの研修会をしているが、受講する先生方の意識が育たないと、せっかくの研修が実践につながらないということを痛感した。昨年度の研修会では、先生方にブックトークの楽しさを知ってもらうために、ブックトークボランティアの「ランプ」の方にお願ひし、実際に子どもたちを相手にするような内容で実施した。先生方はブックトークの面白さを実感したようで、中学校からのブックトークの申込みが増えたと聞いている。今年度も同様の研修内容で実施した。今年度の総会では「仙台市子ども読書推進計画2024」についてもふれ、学校図書館を魅力的にするために、定例会では、今年度は市内の全中学校から、図書館運営の取組みのアイデアを募集し、それを全教員で共有してディスカッションする内容を考えている。先生方は子どもたちに本を読ませたいと簡単に言うが、やはり見える活動をしていかないといけないので、まずは楽しさを実感してもらうブックトークと、先生方が読書推進の仕掛け人になるための実践を助けるような活動を考えている。

また、今年度、学校便りに私の記事を載せてもらうことにした。本の内容を紹介して、お勧めしたりするコーナーを設けて、推進計画の中にある「家読」について、親への啓蒙を図ることを考えている。大人が動かないと恐らく子どもには伝播しない。あとは子どもに直接アタックしていくこともして、その両輪で中学校は動き始めている。

議 長 非常に心強いお話だと思う。

杉山秀子委員 素晴らしいお話だと思う。以前、市内の図書館の子供図書室にいた行政教員の方は、絵本についての知識は十分ではなかったが、とても一生懸命に仕事をしていた。残念なことに、図書館の行政教員は3年ぐらいで学校に戻ってしまうので、3年間で知識を一生懸命蓄えても、その後、学校に戻ってその力がなかなか発揮できない。せっかく専門性を高めても次の段階で生かされないということを伺い、ものすごくもったいない話だなと思った。

議 長 組織的な問題でもあるが、これまでも、図書館でも人を資源として育てていくというお話も出てきたところなので、それぞれで取り組んでいただければと思う。

高橋由臣委員 今年の2月に、地域コーディネーター研修に参加した。年2回の研修で、参加者は地域のPTA会長、教頭先生、児童館の職員、地域のスーパーバイザーで、地域の仕掛け人にあたる方々である。学校を核とした地域での取組みについての情報発信や事例

紹介をして情報共有や勉強の場となっている。そこに榴岡図書館の職員に来ていただきブックトレードを行った。地域の仕掛人が集まるところで、図書館の取組みをたくさんの人に知ってもらうよい機会になったと思う。榴岡図書館の職員に参加していただいたことで、参加者同士がその場で名刺交換をしたり、どういうノウハウでこういった企画ができるのかを話したり、お互いにつながりをつくる場として、とても合理的だと思った。大人が様々なところを巻き込んで、最後は地域の子どもたちに還元できればいいと思っている。今回はとてもウィン・ウィンだったのではないかと思う。

議 長 ともいい話だと思う。榴岡図書館から何かあるか。  
事 務 局 出張ブックトレードをやりたいと思っていたところ、生涯学習支援センターから、今回の研修会のお話があり実現した。実施には条件があるが、いろいろなところに出張可能で、例えば、地域のお祭りにも行けますというお話をさせていただいた。その地域のリーダーになる方たちとたくさん名刺交換ができたので、今後、様々なところで実現できればと思っている。

議 長 いいネットワークができてよかったと思う。このような情報共有でも構わない、他に  
あるか。

矢嶋哲也委員 ヤングアダルト世代の関心を高めるために、講演会にむけて中高生の実行委員を募  
り、自分たちに企画運営させるという話があったが、それは今回初めての取組みか。

事 務 局 実行委員会という形で、子どもたちが初めから講演会に参画して実施するという  
のは、今回が初めての試みとなる。

矢嶋哲也委員 参考資料の図書館利用者懇談会の若林図書館のところに、YA世代について、市民セ  
ンターと連携して世代間交流を促進してほしいという意見があった。中高生は、おそらく試験勉強以外で図書館をほとんど利用しない世代だと思うので、子どもたちが自分たちで企画運営する主体的な取組みの結果、イベントが実施されるというのは、その世代にとって波及効果が大きいのかなという気がする。ぜひこういった取組みを行ってほしいと思った。

事 務 局 現在、実行委員会を募集しているところだが、想定を超えて多くの方から応募して  
いただいている。これまでは、実行委員会形式ではなかったが、児童文学者講演会を開催すると、講演会が始まるまでの間、中高生世代の子どもたちがずっと本を読んでいる様子を目にしたり、満席になるほどの人気を集めたことがある。中高生世代の不読率というのが問題にはなっているが、やはり本が好きな子というのは一定数いることを感じている。その子たちが自ら主体的になって企画運営をして、それをまた同世代にアピールしていくことによって、本を読む習慣がない子どもたちにも、読書の楽しさが伝わっていけばと期待している。

## (2) 令和6年度仙台市図書館予算概要について

(市民図書館副館長 報告)

資料2に基づき報告

[委員からの質問・意見等]

小林直之委員 資料購入費はほとんど運営管理費の中に含まれていると思うが、電子書籍の購入費はどこの予算に入っているか。

事務局 市民図書館に入っている。

小林直之委員 そうすると、市民図書館の資料購入費というのは結構かさんでしまうのではないか。

事務局 この資料では、市民図書館の資料購入費として、紙の資料、電子図書館、移動図書館で資料を購入する分を全て含めている。この表の中では一つにまとめているが、市民図書館の資料購入費とは別に電子図書館に係る費用として予算は計上している。

小林直之委員 電子図書館の予算推移は、資料化する予定はあるか。どれくらいの予算が計上されていて、どのくらい支出しているのか確認したい。

事務局 令和3年11月から電子図書館が開始されたので、3年度以降の決算額と6年度の予算額を次回お示しさせていただく。

### (3) 令和5年度蔵書点検結果について

(市民図書館副館長 報告)

#### 資料3に基づき報告

[委員からの質問・意見等]

小林直之委員 不明になっている図書は高額図書か。厄介なのは、もう入手できないような本や資料の場合、持っていかれてしまったら再度入手するのが困難になる。

事務局 今回不明になっているものには、そのような資料や非常に高額なものは入ってはいない。特定のジャンルはあるようで、不明になった本のジャンルをさらに検証する。先ほどご説明したとおり、置き場所を少し変えて、取っていきづらいような場所に配架してみるとか、可能な限りの工夫をした上で、特に見回りを強化するという対応を考えている。

小林直之委員 もし新刊図書が不明になる傾向が多いのであれば、新刊図書は電子書籍だけにするというやり方もあると思う。電子書籍は不明にならないので、そのようにしているところもあるようだ。今後、対策として考えていかなければならないと思う。

事務局 私どもも、0.1という数字は、増えはしたが、各政令市の図書館の不明率を参照してみると、非常に高い数字というわけではない。だから良いというわけではないが、これ以上に厳しい対策を取るとなると、監視カメラなども考えられるが、予算がかかる以上に、監視カメラまでつけるというのは図書館としてはどうかというところもある。まずは職員の見回りの強化であるとか、何か特定のもの、シリーズものとか不明になっている本の傾向が分かるのであれば置き場所、配置などを変えてみるなど、可能な限り工夫をして、現段階では、不明率がこれ以上悪化しないように、対策を考えている。

議長 各館で情報の共有をしながら進めていただければと思う。

竹内透史委員 宮城県図書館でも不明図書は出るわけだが、なかなか対策が難しい状況で、タグや防犯防止装置をつけるというのも予算的に難しい。その解除の方法や手順が変わったりもするので、新しい本だけにつければいいという問題でもない。監視カメラの話もあったが、県図書館も図書館の自由の観点から、貸出者が何を借りたかというのは図書館にと

って守らなければならない情報であるため、カウンター等にはつけていない。  
対策が難しいというのが実情で、以前、エレベーターのそばに新着本を置いていたが、  
カウンターの前に置き場所を変更したら、不明図書がかなり減ったということがあつ  
た。利用者の良識に頼るしかなく、県図書館も同じく悩んでいるが、置き場所の変更と  
いうのも対策になるのかなと思う。

#### (4) 大規模修繕工事に伴う若林図書館の臨時休館について

(市民図書館副館長 報告)

資料4に基づき報告

[委員からの質問・意見等]

議 長 休館している間も予約資料の受け取りや返却はできるということで、地域の方にとつ  
ては非常によかったと思う。

#### (5) 「仙台市図書館振興計画2022」の中間見直しに向けて

#### (6) 令和6年度仙台市図書館協議会について

(市民図書館副館長 報告)

資料5に基づき報告

[委員からの質問・意見等]

議 長 市政モニターアンケート、全館利用者アンケートについてのアンケートの内容という  
のはどういうものを考えているか。

事 務 局 市政モニターアンケートと利用者アンケートについては、今回の「図書館振興計画  
2022」の策定について具体的に作業をした令和3年度の前年度、令和2年度にも同様のア  
ンケート調査を実施している。

利用者アンケートは利用している方に対するアンケートなので、ふだん図書館を利用  
していて、例えば職員の接遇はどうかとか、どういった図書があるといいかなど、その  
利用に係る具体的なことを聞く設問もある。一方、市政モニターアンケートに関しては、  
そもそも図書館に期待することはどういうことなのか、利用しているのかしていないの  
か、利用しないとすればなぜ利用しないのか、そういったことをお聞きするアンケート  
というように、同じような設問もあるが、性質は多少違うアンケートとなるものと考え  
ている。

議 長 承知した。例えば、学校に対するものは何か想定しているか。

事 務 局 学校に直接お伺いをするというだけでは考えていないが、学校教育と関わるようなこ  
とについての調査も、検討が必要かと考えている。

議 長 学校の役割は、非常に大きくて、先ほどもお話があったように先生方のモチベーショ  
ンとかメンタリティによって大きく左右されている部分もあると思う。そういう意味で  
先生方のご意見、お考えといったものも反映されるとまた違うのかなと思う。

事 務 局 アンケートについては、ただいまのところ予定しているものを記載しているので、委  
員の皆様からもご意見を頂戴しながら、これ以外にもこういったアンケートというよう

なことを考えた場合はご報告をし、今年度はアンケートでいただいたご意見を取りまとめて、最終的には今年度最後の協議会でご報告をする流れで考えている。

議長 承知した。

佐藤幸雄委員 令和2年度に実施したアンケート調査の規模がわからないが、今回はどれぐらいの規模で調査する予定なのか。また、議長のお話のように子どもたちの声もぜひ聞いたほうが良いと思う。「子ども読書活動推進計画2024」の中にデータがあるが、ほとんどの学校で朝読書を実施している。必ず朝読書をして一日をスタートする取組みは素晴らしいが、小学校から中学校になると、読書をする人口がかなり減っていく。学校図書室もそうだが、市図書館との関係性についても、子どもたちのニーズについてはぜひ聞いていただけたらいいと思う。

せっかく学校で朝読書をしているので、これを市図書館につなげていくためには、例えば学校の図書室だどこまでの本しかないが、市図書館に行くときさらにこの先に続くと本があることを教えてあげられれば、子どもたちがそれをきっかけとして学校図書室から専門性がある市図書館へつながっていくと思う。

朝読書との関連性をうまく活用して、さらにたくさん本を読んでいただける方が増えるといいなと思う。

事務局 前回のアンケートの実績についてだが、市政モニターアンケートは、本市の広聴課で委嘱しているモニターにお願いするもので、前回は189名の方にご協力いただいた。

全館利用アンケートは、市内の7館、移動図書館、分室、そしてサービススポットで実施し、紙とインターネット等により回答をいただいた。前回は1,048名の方にご協力いただいた。皆様のご意見を参考にさせていただきながら、「仙台市図書館振興計画2022」を作成した。

議長 アンケートは作成するのも実施するのも結果を見て分析するのも大変だが、子どもたちもアンケートをすることで何か気づきがあるといいなと思う。

副会長 令和6年度の運営方針と事業計画を見ると、時代の変化やニーズの中で本当に業務が多岐にわたっていることが改めて分かった。

私は学校教育の教員養成をしている立場なので、そのあたりに興味があって、ヤングアダルト世代が講演会の実行委員会に参加することについては、ぜひ様々なところでマスコミなどに取り上げていただけたらいいと思った。

今学校は各教科等のカリキュラムでいっぱい余裕がなく、読書はなかなかその中に入れられない。朝読書のようにカリキュラム外であればコミットしやすいのかもしれないが、その一方で、今、学校教育が求められているのは課題解決をする力を子どもたちにつけるとか、社会に参加していく力をつけていくとか、学校の中に閉じこもるわけではなくてそこからどんどん開いていくような、そういう子どもたちの育成が求められている。しかもこのSNS時代、こうしたヤングアダルト世代の講演会の実行委員というのも、SNSを使えば今まで閉じた学校の中だけでやっていたものが一気にいろんな人たちと結びついたりできる状況があって、私はここに一定の活路があると見ている。小学校は少し難しいかもしれないが、中学校、高校になるとSNSを積極的に活用して

新しいコミュニティをつくる。ならば図書館がそのコミュニティづくりの仕掛け人になるというのがいいと思う。どの年代にも一定の本好きの層はいる。そういう人たちをうまく活用してモデルケースにしていく、そういうことが大事かなと思う。

以前に、図書館の機能が物の管理から情報センターになって、そしてコミュニティをつくる場所になっていくという話をした。モノからコトへ、コトからコミュニティへという図書館の役割の変化もそこにはあるのではないかという話もしたことがあるが、もし図書館の人がまだ図書館を調べ学習の場だと思っているとしたら、まだ情報センターの役割でしか自分たちを見ていないことになる。もちろんその役割もなくなるわけではないが、それだけではなく、コミュニティをつくる仕掛けの場になるということも意識しなくてははいけない。その一つの例が今回のヤングアダルトの行事の実行委員だと思う。子どもたちを動かそうとすれば、図書館だけでは難しいので、当然、学校の先生にも手伝ってもらわないといけないが、職員を増やすのではなく、今回のように子どもたちに図書館に来てもらい、その人たちをマネジメントしていくようなものであれば、図書館の限られた人的な条件の中でもやれるものはあると思う。しかも、カリキュラム外で図書館ベースでコミュニティをつくる仕掛けをやってもらえたら素晴らしい。ここに来ると夏休みが面白くなりそうだ、何かが起こるという期待をヤングアダルト世代の利用者に感じてもらえればいいと思う。

- 議 長 「子ども読書活動推進計画 2024」策定のときにも「コミュニティ」の話がでていた。図書館を軸として読書コミュニティをつくっていくことができるというのは、すてきだなと思いつながりながら計画策定に携わっていた。
- 副 会 長 まず、何かをやってみて、それをマスコミ等に取り上げてもらう。そういうことから、構わないと思う。
- 事 務 局 初めての試みなので、とにかくやってみるということで考えている。

## 5 その他

参考資料・配布チラシの説明

次回協議会の案内

## 6 閉会